

令和 7 年度事業報告書

学校法人塚本学院
大阪芸術大学グループ

令和7年度 学校法人塚本学院 事業報告書

I. 法人の概要

◇基本情報

①法人の名称

学校法人塚本学院

②主たる事務所の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス

主たる事務所の所在地 大阪府大阪市東住吉区矢田2-14-19
電話番号 / FAX番号 TEL 06-6692-7487 / FAX 06-6691-9255
ホームページアドレス <https://www.osaka-geidai.ac.jp/>

◇建学の精神

大阪芸術大学

自由の精神の徹底
創造性の奨励
総合のための分化と境界領域の開拓
国際的視野に立つての展開
実用的合理性の重視

大阪芸術大学短期大学部

大阪芸術大学短期大学部は、
日本国憲法に則り、
私学の本分を尽くし、
世界の平和と人類の福祉に貢献することを目的とする。
また、広く知識を求めて学術の研究に励み、
専門的技術の習熟に努め、
もって心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校

自由の精神の徹底
創造性の奨励
総合のための分化と境界領域の開拓
国際的視野に立つての展開
実用的合理性の重視

◇学校法人の沿革

昭和20年	(1945) 初代理事長・学長故塚本英世により、平野英学塾創設。
昭和21年	(1946) 財団法人浪速外国語学校(3年制)を創立。平野英学塾を発展的解消。
昭和26年	(1951) 浪速外国語短期大学英语科及び学校法人浪速外国語学院を創立。
昭和27年	(1952) 大阪幼稚園教員養成所を設置。
昭和28年	(1953) 浪速外国語短期大学附属幼稚園を設置。
昭和29年	(1954) 浪速外国語短期大学に保育科を増設と同時に大阪幼稚園教員養成所を発展的解消。 浪速外国語短期大学を浪速短期大学に改称。巡回保育青い鳥幼稚園を開始。
昭和30年	(1955) 浪速短期大学に通信教育部保育科を増設。
昭和32年	(1957) 大阪美術学校(各種学校)を設置。
昭和33年	(1958) 浪速短期大学附属照ヶ丘幼稚園を設置。
昭和34年	(1959) 大阪市東住吉区矢田に法人本部を移転。
昭和35年	(1960) 浪速短期大学にデザイン美術科及び広報(マス・コミュニケーション)科を増設。
昭和37年	(1962) 浪速短期大学に商業科及び専攻科デザイン美術専攻を増設。
昭和38年	(1963) 浪速短期大学通信教育部にデザイン美術科及び広報(マス・コミュニケーション)科を増設。
昭和39年	(1964) 浪速芸術大学芸術学部美術学科及びデザイン学科を設置。
昭和41年	(1966) 学校法人浪速外国語学院を学校法人塚本学院に改称。浪速芸術大学を大阪芸術大学に改称。
昭和42年	(1967) 大阪芸術大学芸術学部建築学科及び文芸学科を増設。
昭和43年	(1968) 大阪芸術大学芸術学部音楽学科及び放送学科を増設。浪速短期大学附属金剛幼稚園を設置。
昭和44年	(1969) 大阪音楽センターを設置。
昭和45年	(1970) 大阪芸術大学芸術学部写真学科及び工芸学科を増設。大阪芸術センターを設置。
昭和46年	(1971) 大阪芸術大学芸術学部環境計画学科、音楽教育学科及び演奏学科並びに映像計画学科を増設。
昭和47年	(1972) 大阪音楽専門学校(各種学校)を設置。 米国美術大学連盟加盟校との夏期特別セミナー(第1回)を開講。以後、毎年本学及びカリフォルニア美術工芸大学等を会場として交互に開講。 第1回日韓3大学デザイン美術交流展開催。以後、大阪及びソウルを会場として開催。
昭和48年	(1973) 大阪芸術大学芸術専攻科(美術、デザイン、建築、文芸、音楽各専攻)を設置。
昭和49年	(1974) 大阪芸術大学芸術学部舞台芸術学科及び芸術計画学科を増設。
昭和50年	(1975) 学院創立30周年記念式典を挙行。
昭和53年	(1978) 大阪芸術大学芸術専攻科(写真、工芸、音楽教育、演奏各専攻)を増設。 大阪音楽専門学校(各種学校)を大阪芸術大学附属大阪音楽学校(各種学校)に改称。
昭和56年	(1981) 大阪美術学校(各種学校)を大阪芸術大学附属大阪美術専門学校(専修学校)として設置。 塚本英世記念館芸術情報センターを設置。
昭和57年	(1982) 大阪芸術大学・浪速短期大学附属泉北幼稚園を設置。
昭和60年	(1985) 学院創立40周年記念式典を挙行。
昭和61年	(1986) 大阪芸術大学芸術学部映像計画学科を同映像学科に名称変更。浪速短期大学伊丹学舎竣工。
昭和62年	(1987) 第1回日中交流作品展を上海で開催。以後、隔年に大阪と上海で開催。 学校法人塚本学院白浜研修センターを設置。
平成 4年	(1992) 学校法人塚本学院菅平高原研修センターを設置。
平成 5年	(1993) 大阪芸術大学大学院芸術文化研究科(修士課程)を設置。
平成 7年	(1995) 学院創立50周年記念式典を挙行。大阪芸術大学大学院芸術文化研究科(博士課程)を設置。
平成 9年	(1997) 大阪芸術大学大学院芸術制作研究科(修士課程)を設置。
平成12年	(2000) 浪速短期大学を大阪芸術大学短期大学部に名称変更。
平成13年	(2001) 大阪芸術大学に通信教育部芸術学部美術学科、デザイン学科、建築学科、文芸学科、音楽学科、放送学科、写真学科、工芸学科、映像学科、環境計画学科を設置。
平成14年	(2002) 大阪芸術大学博物館を設置。
平成15年	(2003) 大阪芸術大学芸術学部環境計画学科を環境デザイン学科に改称。
平成17年	(2005) 学院創立60周年記念式典を挙行。 大阪芸術大学大学院芸術文化研究科(博士課程)及び芸術制作研究科(修士課程)を芸術研究科博士課程[前期・後期]に改組。

大阪芸術大学芸術学部 キャラクター造形学科を増設。大阪芸術大学短期大学部商業学科を経営デザイン学科に名称変更。

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校 キャラクター造形学科を増設。

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校デザイン工学科を総合デザイン学科に名称変更。

平成19年 (2007) 大阪芸術大学テレビ開局。

平成20年 (2008) 大阪芸術大学はたるまちキャンパス開設。

平成22年 (2010) 大阪芸術大学芸術学部 初等芸術教育学科を増設。大阪芸術大学通信教育部芸術学部 初等芸術教育学科を増設。

大阪芸術大学短期大学部 経営デザイン学科をビジネス学科に、広報学科をメディア・芸術学科に名称変更。

平成25年 (2013) 大阪芸術大学附属大阪美術専門学校に総合アート学科を増設。

平成26年 (2014) 大阪芸術大学スカイキャンパス開設。

平成27年 (2015) 学院創立70周年記念式典を挙げる。

平成29年 (2017) 大阪芸術大学芸術学部 アートサイエンス学科を増設。

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校 総合アート学科をコミック・アート学科に名称変更。

◇設置する学校・学部・学科等

大阪芸術大学
大学院 芸術研究科

芸術学部 美術学科 デザイン学科 建築学科 文芸学科 音楽学科 放送学科
写真学科 工芸学科 映像学科 演奏学科 舞台芸術学科
芸術計画学科 キャラクター造形学科 初等芸術教育学科
アートサイエンス学科
通信教育部

大阪芸術大学短期大学部
保育学科 メディア・芸術学科 デザイン美術学科
通信教育部

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校
総合デザイン学科 コミック・アート学科
芸術研究科

大阪芸術大学附属松ヶ鼻幼稚園
大阪芸術大学附属照ヶ丘幼稚園
大阪芸術大学附属金剛幼稚園
大阪芸術大学附属泉北幼稚園

◇役員・教職員の概要 等

1. 役員(令和7年5月29日現在)

理 事 定数6～8名、任期4年、実数7名

監 事 定数2名、任期4年、実数2名

理 事 会 開催計8回(令和7年度実績)

※参考

評 議 員 定数7～9名、任期4年、実数8名

評議員会 定例2回、臨時2回、開催計4回(令和7年度実績)

理事 7名

理事長	塚本 邦彦
副理事長	塚本 英邦
専務理事	亀谷 眞一
理事	大沢 政徳
理事	工藤 皇
理事	小出 秀文
理事	後藤 治文

監事 2名

監事	佐藤 重勝
監事	林 佐智代

評議員 8名

評議員	塚本 朋子
評議員	小野 昭夫
評議員	渡邊 純
評議員	横溝 秀美
評議員	桒田 幸宏
評議員	太田 順子
評議員	植村 悦和
評議員	西村 義弘

会計監査人

・名称 EY新日本有限責任監査法人

・就任年月日 令和7年5月29日

責任免除に関する決議等

責任免除については、寄附行為第62条に規定されており、役員又は会計監査人が賠償を負う金額から私立学校法第92条の規定に基づく最低責任限度額を控除して得た金額を限度として理事会の決議によって免除することができる。

補償契約・役員賠償責任保険契約

理事・監事等役員の損害賠償について負担の軽減並びに大学経営に関する危機管理の一助に日本私立大学協会の私大協役員賠償責任保険制度に理事会、評議員会で承認され加入している。

理事選任機関の概要

理事選任機関は理事会とし、構成員はすべての理事とする。

2. 教職員の概要(令和7年5月1日現在)

(単位:人)

	専任教員	非常勤	専任	計
		教職員	事務職員	
大阪芸術大学	266	765	65	1,096
大阪芸術大学短期大学部	57	140	20	217
大阪芸術大学附属大阪美術専門学校	13	73	9	95
大阪芸術大学附属松ヶ鼻幼稚園	8			8
大阪芸術大学附属照ヶ丘幼稚園	8			8
大阪芸術大学附属金剛幼稚園	9			9
大阪芸術大学附属泉北幼稚園	4			4
法人本部			47	47
合 計	365	978	141	1,484

Ⅱ．事業の概要

・「卒業の認定に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」、「入学者の受入に関する方針」

大阪芸術大学

・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

建学の精神を体現し、クリエイター、教育者、そして芸術の良き理解者として社会に貢献し得る能力を学修していることを求める。成績評価は卒業所要単位数の修得、卒業制作・論文・演奏の審査により、学位を授与する。

- ①創造性と独創性創作・表現・研究活動への主体的な取り組み／独創性・創造性の伸張／専門的な能力の獲得
- ②社会創造・貢献への意欲・能力芸術を通じた社会創造・社会貢献の経験／社会人として必要な課題解決能力の獲得
- ③境界領域の開拓他領域・異分野への視野の獲得／コラボレーションの経験

・教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)

①本学の科目構成

「教養科目」: 大学における学問探究の導入課程として位置づけている。豊かな人間性と広い視野を獲得すること及び科学的な思考能力を養成し、芸術創造における科学的思考の重要性を理解することを目指す。

「専門教育科目」: 学生が学科・コースで専攻する芸術分野についての深い理解と高度な創造力を養成し、社会が求める有為な人材を育成することを目指す。

「専門関連科目」: 各学科の専門分野を学生が学問的関連性、知的関心のもとに主体的に履修できるよう設けたもので、異なる分野の基礎科目を学修することによって、専門の細分化を防ぎ、広い専門的視野を切り開くことを目指す。

「卒業制作・論文・演奏」: 4年間の学修の集大成を作品、論文及び演奏として結実する。大学で修得した知識、技術、創造力、表現力等を十分発揮できるよう、個別指導を行う。

②「専門教育の重視」芸術教育機関として、少人数又はグループによる「演習及び実技・実習」を根幹におき、教養・基礎科目をバランスよく配置する。また、必修・選択区分、履修制限及び進級・卒業要件を適切に設定し、専門教育を段階的に実施する。

・入学者選抜方針(アドミッション・ポリシー)

本学は入学者の受入れについて、教育目的の達成に必要な下記の資質を評価基準とし、これを多面的な方法により審査する。

「美を追究するマインド」— 美への探究心／創作・表現活動への好奇心と意欲

「創造性と独創性」— 基本的な知識と技術／自由な発想と創造力

「社会創造・社会貢献へのマインド」— 他者・地域・社会への興味／コミュニケーション能力

「境界領域への開拓精神」— 広い視野／異分野への好奇心

・大阪芸術大学学科別ポリシー

<https://www.osaka-geidai.ac.jp/guide/philosophy>

大阪芸術大学短期大学部

・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

建学の精神を体現し、教育者、クリエイター、そして心身ともに健全な社会人として社会に貢献する能力を学修していることを求める。卒業所要単位数の修得により、学位を授与する。

・教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

広く知識を求めて学術の研究に励み、専門的技術の習熟に努め、もって心身ともに健全な文化人を育成することを理念とし①「総合教育科目」、②「専門教育科目」により構成している。

①「総合教育科目」: 自然や社会、人間とその生活についての基本的な知識や技能を修得すること、また、その修得の過程において確固たる世界観や人間観を形成するとともに、自ら学び自ら考える学び方を身につけることをめざしている。

②「専門教育科目」: 学生が学科・コースで専攻する分野についての深い理解を養成し、社会が求める有為な人材を育成することをめざす。

・入学者の受入に関する方針(アドミッション・ポリシー)

本学の入学者の受入について、教育目的の達成に必要な下記の資質を評価基準とする。

保育学科・通信教育部保育学科

- ・ 将来幼児教育・保育に携わることを目標としている人物
- ・ 幼児教育・保育に関する専門知識や技術を高めることをめざしている人物
- ・ 豊かな人間性を育み、常に研究心を持って学業に専念する人物

メディア・芸術学科

- ・ メディア・芸術に対して幅広い興味、深い関心、強い好奇心を持っている人物
- ・ メディア・芸術への表現に対する強い興味を持っている人物
- ・ 自ら課題を見出し、解決しようとする意欲を持っている人物
- ・ 基礎的な学力や創造力、柔軟な思考力を持っている人物

デザイン美術学科

- ・ 芸術文化に対して幅広い興味、深い関心、強い好奇心を持っている人物
- ・ 表現に対する強い意欲を持っている人物
- ・ 自ら課題を見出し、解決しようとする意欲を持っている人物
- ・ 基礎的な学力や造形力、柔軟な思考力を持っている人物

・大阪芸術大学短期大学部学科別ポリシー

<https://osaka-geitan.jp/guide/philosophy/#purpose>

大阪芸術大学附属大阪美術専門学校

・卒業認定・称号付与方針(ディプロマ・ポリシー)

クリエイターとして、心身ともに健全な社会人として社会に貢献する能力を学修していることを求める。時代の新しい変化に即した機敏な対応ができ、社会が要求する新しい知識や技術を高度に身につけ、かつ卒業要件単位数を修得し、卒業制作の審査に合格した者に専門士(文化・教養専門課程)の称号を付与する。

・教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)

広く知識を求めて学問と芸術の研究に励み、専門的技術の習熟に努め、もって心身ともに健全な職業人を育成することを理念とし「総合教育科目」、「専門教育科目」、「オープン科目」により構成している。

①本校の科目構成

「総合教育科目」:全ての学科において共通して開講している科目である。コースの必修科目と時間が重ならない限り、自由に選択履修することができる。

「専門教育科目」:専攻する芸術分野について、深い理解と高度な創造力を養成し、社会が求める有為な人材を育成することを目指す。

「オープン科目」:創造力や感性を研ぐために、可能な限り、他コースの科目を開放し、自由に選択履修できる科目である。

②専門教育の重視

芸術教育機関として、少人数又はグループによる「演習及び実習」を根幹におき、基礎科目をバランスよく配置する。また、必修・選択区分、卒業要件を適切に設定し、専門教育に特化し段階的に実施する。

・入学者選抜方針(アドミッション・ポリシー)

- ①将来の夢や目標を持っている方
 - ②本校の教育内容や方針を十分理解している方
 - ③好きな仕事を通じて人に喜びや感動を与えたい方
 - ④好きなことを仕事にしたいという気持ちを持っている方
- 上記のいずれかに該当する方。

・大阪芸術大学附属大阪美術専門学校学科別ポリシー

<https://www.bisen.ac.jp/outline/policies/>

・令和 7 年度の主な事業の概要

大阪芸術大学グループ

・大阪医療大学の開設

令和 6 年 10 月より設置認可申請を行っていた大阪医療大学は、令和 7 年 8 月 29 日に文部科学大臣より認可を受け、令和 8 年 4 月より開学する。

新たに開学する大阪医療大学は、大阪芸術大学短期大学部保育学科の学生募集停止(令和 7 年度)を受け、当該学科が使用していた短期大学部大阪学舎(大阪市東住吉区矢田)の校地校舎を引き継ぎ、医療看護学部(理学療法学科、看護学科/各学科入学定員 40 名)の専門的な施設・設備を拡充して開学する。

大阪医療大学は、「人生 100 年時代」の到来を目前に控え、ますます高まる医療・介護の重要性、「健康寿命」の延伸・医療 DX 化といった山積する課題や社会の要請に応え、医療や介護から健康づくりまで幅広い領域にわたって活躍できる医療専門職の養成を目指している。

きめ細やかな少人数制を導入し、最新設備を完備する充実した教育環境を整えて、質の高い教育を提供するとともに、大阪芸術大学グループならではの感性や発想力を育む学びも取り入れ、自ら考

え、課題を解決し、日本の医療に新たな価値を創造することのできる人材の育成に取り組んでいる。

・内部質保証の推進

本学は自律的な組織として学則に定める使命・目的を達成するため、塚本学院自己点検・評価規程をはじめ各校自己点検・実施規程を制定し、自己点検・評価のための基本組織を整備している。また、各校の学則において、「自己点検・評価」の条項を定め、その方針を明示している。

各校の自己点検実施委員会は、大学・短大においては学長を委員長とし、副学長、各学科長、教養課程主任教授、事務局長、事務室各事務部長・各課長、法人本部専務理事、総務部長等により構成し、専門学校においては校長を委員長とし、各学科・コース長より選出された委員(5名)と、事務局より事務長ならびに課長により構成し、各部門における諸課題を自己点検実施委員会に集約して体系的に点検・評価を行うことが可能な体制を整備している。

内部質保証のための自己点検・評価は、各校自己点検実施規程に基づいて設置する自己点検実施委員会が実施主体となっており、全学的な自己点検・評価に基づく改革・改善の指示を行うことが可能な体制となっている。自己点検実施委員会の指示により、作業部会が自己点検評価書を作成し、自己点検実施委員会を経て自己点検運営委員会(法人本部常務会)に上程され、理事会・評議員会の承認を得て公表を行っている。

令和4年度には大阪芸術大学短期大学部において「大阪芸術大学短期大学部内部質保証方針」を、令和5年度には大阪芸術大学において「大阪芸術大学内部質保証方針」をそれぞれ制定し、3つのポリシーを起点とする教育の質保証と中長期的な計画を踏まえた本学全体の質保証の双方についての自己点検・評価を行っている。

◇各校における自己点検・評価活動の状況(各校ウェブサイト URL)

- ・大阪芸術大学 <https://www.osaka-geidai.ac.jp/guide/jihee>
- ・大阪芸術大学短期大学部 <https://osaka-geitan.jp/guide/financial/>
- ・大阪芸術大学附属大阪美術専門学校 <https://www.bisen.ac.jp/outline/reports/>
- ・大阪芸術大学附属幼稚園
 - 松ヶ鼻幼稚園 <http://www.kids.osaka-geidai.ac.jp/m/disclosure/>
 - 照ヶ丘幼稚園 <http://www.kids.osaka-geidai.ac.jp/t/disclosure/>
 - 金剛幼稚園 <http://www.kids.osaka-geidai.ac.jp/k/disclosure/>
 - 泉北幼稚園 <http://www.kids.osaka-geidai.ac.jp/s/disclosure/>

・研究活動支援の取り組み

競争的資金による公的研究費として、文部科学省、日本学術振興会の科学研究費助成事業(科研費)について、令和7年度は、計2件が採択(大学2件、いずれも継続課題)されている。令和8年度科研費については、令和7年7月に大学ウェブサイトにて学内公募説明会を実施しており、「基盤研究(B)」「基盤研究(C)」「挑戦的研究(萌芽)」「若手研究」「研究成果公開促進費(学術図書)」等の研究課題に対して、大学、短大あわせて計12件の応募申請を行い、うち大学から1件(「基盤研究(C)」)、短大から2件(「基盤研究(B)」「基盤研究(C)」)が採択されている。

科研費以外の公的研究費(委託研究事業)では、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の戦略的創造研究推進事業・チーム型研究(CREST)の研究領域「生体マルチセンシングシステムの究明と活用技術の創出」について1件(研究課題「サイバー社会における多重世界予測符号化の解明」における「VR技術により誘導される脳と行動の変容」)(研究担当者)が採択(継続課題)されている。

本学独自の応募型研究助成制度である「塚本学院教育研究補助費」(研究課題1件につき

500,000 円を上限)について、令和 7 年度は、大阪芸術大学 32 件、大阪芸術大学短期大学部 15 件※、大阪美術専門学校 1 件の計 48 件(22,970,510 円)が採択されている。また、令和 7 年 11 月に令和 8 年度教育研究補助費の申請受付を行い、教育研究補助費運営委員会による書類審査の結果、大阪芸術大学 37 件、大阪医療大学 8 件、大阪芸術大学短期大学部 6 件、大阪美術専門学校 1 件の計 52 件(25,208,340 円)が採択となった。

塚本学院出版助成(1 件につき 1,500,000 円を上限)では、令和 7 年度は応募・採択の実績はなかったが、令和 8 年度の出版助成に係る申請受付の公示を令和 7 年 6 月より行なったところ、大阪芸術大学教員より 1 件の応募があった。所管の藝術研究所運営委員会による書類とヒアリングによる審査が 12 月に行われ採択が決定している。また、大阪芸術大学藝術研究所調査補助については、令和 7 年度、令和 8 年度ともに該当する研究課題の応募はなかった。

※令和 7 年度教育研究補助費の短大採択数には大阪医療大学設置準備委員の採択数(7 件)を含む。

・産官学連携事業・委託事業

市町村等の地域社会との連携事業や、製品開発の提案、ポスター・表紙デザイン・動画制作、イベントの企画運営等、本学では地域、産業との共同研究や開発に積極的に取り組み、学生の創造性やアイデアの可能性を追求している。総合芸術大学の特色である広い分野と多彩な教育を最大限に活かして、さまざまな実学の機会を設けている。

- ・4 月 大阪府 都市整備部からの委託により、新モビリティ導入に向けた取組の推進事業として、南河内地域で運行する自動運転バスのロゴデザインを大阪芸術大学デザイン学科学生が作成した。
- ・4 月 奈良県斑鳩町 住民生活部からの委託により、大阪芸術大学デザイン学科学生が斑鳩町食品ロス削減推進事業のロゴデザイン、ステッカー、ポスターの制作を行った。
- ・4 月 1 日～7 月 15 日 株式会社 Global Com's Japan と大阪芸術大学デザイン学科との産学連携プロジェクトとして、宿泊施設の空間デザインを担当。
- ・4 月 13 日～10 月 13 日 大阪・関西万博の ORA 外食パビリオン「宴～UTAGE～」内、象印マホービン株式会社の出店する「ONIGIRI WOW!」において、ニコニコ海苔株式会社と大阪芸術大学デザイン学科の産学連携プロジェクト『世界のおにぎり』を披露・販売した。
- ・5 月～7 月 株式会社 ICL(株式会社サザビーリーグ)と大阪芸術大学デザイン学科との産学連携により、アフタヌーンティーリビング川西阪急百貨店のウィンドウディスプレイを実施。
- ・5 月～7 月 大阪信用金庫と大阪芸術大学デザイン学科との産学連携プロジェクトとして、大阪信用金庫ノベルティ「2026 年オリジナルカレンダー」を制作。
- ・5 月 11 日 大阪・関西万博会場内 EXPO ホール(シャインハット)にて、大阪国際文化芸術プロジェクト(大阪府・大阪市・大阪文化芸術事業実行委員会)との連携事業「大阪文化祭」を開催。
- ・6 月 株式会社 fanfare と大阪芸術大学デザイン学科との産学連携プロジェクト(学生と福祉が出会うデザインプロジェクト)により、同社製品「キャリア手帳 BOOK COVER」のカバーデザインを実施。
- ・6 月 日本電設工業労働組合からの委託により、大阪芸術大学キャラクター造形学科学生が、公式マスコットキャラクターのデザインを制作。
- ・6 月 17 日～23 日 verbal and dialogue 株式会社と大阪芸術大学未来創造デザイン研究会(デザイン学科)との産学連携による制作物を大阪・関西万博 大阪ヘルスケアパビリオン「リボンチャレンジ」に出展。
- ・7 月～10 月 株式会社電通と大阪芸術大学デザイン学科との産学連携により、電通グループ「人権アートプロジェクト」の人権啓発ポスターを制作。
- ・7 月～12 月 徳島新聞社と大阪芸術大学写真学科との産学連携により、同社のモノクロ写真をカラー

化・アーカイブ化する取り組みを実施。

- ・7月4日～10月5日 TOPPAN 株式会社と大阪芸術大学デザイン学科との産学連携事業により、ロート製薬株式会社(大阪本社)が実施する地域交流事業・壁面アート制作イベントのサポートを担当。
- ・7月31日～8月23日 大阪・関西万博イタリア館にて開催されたモレスキン・モレスキン財団による巡回展「Detour Osaka」において、モレスキンと大阪芸術大学デザイン学科による共同プロジェクト「Unleash Your Genius」アートコンペティションの受賞学生作品を展示。
- ・8月1日～8月31日 株式会社ユニクロと大阪芸術大学デザイン学科との産学連携により、地域活性化の取り組みとして“未来に残したい大阪！”をテーマしたTシャツ(UT)のデザイン・商品化を実施。
- ・8月4日～23日 大阪・関西万博 よしもと waraii myraii 館 アシタ広場にて、大阪芸術大学と吉本興業ホールディングス株式会社との共同企画「アートのアシタ 大笑展」を開催。吉本興業所属の芸人・アーティスト、大阪芸術大学の在学生・卒業生等が参加し「笑い」をテーマに表現したアート作品を展示。
- ・8月9日 大阪・なんば Hatch で開催された FM802 主催の音楽イベント「HIGH ! HIGH ! HIGH ! 2025」に、大阪芸術大学芸術計画学科の学生が会場スタッフとして参加。
- ・8月12日・13日 和歌山県白浜の SHIRAHAMA KEY TERRACE HOTEL SEAMORE と南紀白浜マリOTTホテルと大阪芸術大学芸術計画学科による産学連携プロジェクト「Summre Memories 2025 in 白浜」を開催。探検隊をコンセプトに子ども向け工作ワークショップの企画・運営を行った。
- ・8月29日～9月26日 大阪芸術大学「産学共同プロジェクト」第11回映画作品『メイソウ家族』を東京、神奈川、大阪、京都、愛知、長野、沖縄で上映。
- ・9月～12月 三井ショッピングパークららぽーと EXPOCITY と大阪芸術大学デザイン学科との産学連携プロジェクトとして、館内デジタルサイネージ、クリスマスフォトスポットを制作。
- ・9月16日 大阪・関西万博 ギャラリーWEST にて、大阪芸術大学芸術計画学科の企画・制作、南河内6市町村主催による大阪・関西万博「大阪ウィーク～秋～」南河内 LIVE ART EXPO 大阪芸術大学×河南町 ワークショップ「囁く壺 叫ぶ壺 時ノ壺」を開催。
- ・9月20日 阪神阪急東宝グループ OS 株式会社からの委託により、子どもの創造力や表現を高める体験型プログラム(CINELAB)「神戸をつなごう！～みんなで完成させるまちの魅力パズル」に大阪芸術大学短期大学部学生が参加協力。同プログラムにおけるパズル・観光地マグネットシールの制作、会場デコレーション等を担当。
- ・9月23日～29日 大阪・関西万博フューチャーライフヴィレッジ内のフューチャーライフエキスペリエンス展示ブースにおいて、大阪芸術大学芸術計画学科と国連工業開発機構(UNIDO)との連携プロジェクトにより制作したアート作品「地球の耳」を展示。
- ・10月 奈良県・斑鳩町役場からの委託により、大阪芸術大学デザイン学科学生が、「いかるがの里 聖徳太子マラソン」のポスターデザインを制作。
- ・10月1日～28日 高島屋大阪店にて、高島屋大阪店、コンテンポラリーデザインスタジオ「we+」と大阪芸術大学デザイン学科による産学連携プロジェクト「Re : Local Material」(百貨店の裏側から生まれる未来)として、廃材を再利用した循環型デザイン作品を制作展示。
- ・10月2日～10日 大阪・関西万博会場 EXPO メッセ(WASSE) (大阪府夢洲)での特許庁・特設展示「知財のチカラ」(カプセルトイチャレンジ)において、大阪芸術大学デザイン学科(未来創造デザイン研究会)の学生がオリジナルノベルティ制作に参加。
- ・10月9日～3月31日 株式会社紀陽銀行と大阪芸術大学デザイン学科との産学連携プロジェクトにより、社内誌の表紙イラストデザイン、なんばスクエアで放映するデジタルサイネージ画像のデザイン、地域社内ロカリスト商品「GINGER LOCOWINE」のパッケージデザインを制作。

- ・11月20日～24日 あべのハルカス近鉄本店にて開催の大阪府内を中心とした学校・学生団体による「ハルカス学園祭」(学生が開発・製作した商品や作品を展示・販売する催し)に大阪芸術大学学生が参加。
- ・12月 大阪府警察富田林警察署からの委託により、管内の子どもに対する防犯活動活性化事業として、防犯啓発ポスターを大阪芸術大学デザイン学科学生が制作。
- ・12月7日 プロバレーボールチーム「クボタスピアーズ大阪」からの委託により、大阪芸術大学演奏学科ポピュラー音楽コース学生が公式チームソング「Color Your Future! ～繋がる思い～」を制作。Asueアリーナ大阪(大阪市中央体育館)で行われた公式戦にて初披露を行った。
- ・12月8日～26日 社会医療法人愛仁会 千船病院からの委託により、大阪芸術大学アートサイエンス学科学生が体験型アート作品を制作、病院内の外来フロアにて展示を行った。
- ・1月24日～2月1日 大阪府近つ飛鳥博物館と大阪芸術大学との連携協定に基づく企画展「想像の彼方ー異界の景色を臨むー」(アートと考古学の対話 次世代からの問いシリーズ Vol.3)を芸術計画学科(「プロジェクト演習」近つ飛鳥プロジェクトチーム)の企画・運営により開催。
- ・2月14日 大阪城ホールで開催されたFM大阪・SDD(STOP! DRUNK DRIVING PROJECT)主催「LIVE SDD 2026」に、大阪芸術大学芸術計画学科1年生がイベントプロデュース体験プログラムとして運営スタッフで参加。

・芸術活動の支援、学生主体のイベントの実施

学内外の芸術活動や展覧会等の文化的事業に協賛し、活力ある社会を目指して支援するとともに、学生参加型のイベントにも積極的に協力し、学生の学びをサポートしている。また、さまざまな連携を通して、社会や地域・環境に貢献できる事業にも参画している。

- ・5月25日 あいおいニッセイ同和損保 ザ・フェニックスホールにて、令和7年度大阪芸術大学「学生によるピアノ演奏会」を開催。
- ・6月 大阪・関西万博で行われた「MEGA CANVAS」(大阪府・一般社団法人関西イノベーションセンター共催／横浜冷凍物流倉庫(ヨコレイ)壁面での巨大プロジェクションマッピング作品・投影)に大阪芸術大学アートサイエンス学科が参加。
- ・6月29日・7月1日 大阪・関西万博 屋外ステージ(ポップアップステージ東外)にて、大阪芸術大学ウインド・オーケストラとアメリカ・カンザス大学ウインド・アンサンブルによる合同コンサートを開催。
- ・7月12日・13日 COOL JAPAN PARK OSAKA TT ホールにて、大阪芸術大学舞台芸術学科 令和7年度学外公演「夏町」を開催。
- ・7月19日～8月24日 奈良県立美術館 第6展示室・ギャラリーにて開催の奈良県立美術館コレクション展「わたしたちのびじゅつかん～きて・みて・はなして→たいけんする美術展～」において、大阪芸術大学アートサイエンス学科の学生作品を展示。
- ・8月17日 大阪・SkyシアターMBSにて、大阪芸術大学舞台公演「冰山ルリの大航海」を開催。
- ・8月19日 大阪・Zepp Nambaにて、大阪芸術大学演奏学科ポピュラー音楽コース、大阪芸術大学短期大学部メディア・芸術学科ポピュラー音楽コース学生出演の「POP WAVE LIVE 2025」を開催。
- ・9月 オーストリア・リンツで開催の世界最大級のメディアアートの祭典「Ars Electronica Festival 2025」において、大阪芸術大学アートサイエンス学科学生による混成チームの作品「Sweet Orders」を Campus Exhibition 部門に出展。
- ・9月3日～5日 東京ビッグサイトにて開催のトータルインテリアの国際見本市「LIVING & DESIGN 2025」に大阪芸術大学デザイン学科がブース出展。
- ・9月18日～10月1日 大阪芸術大学芸術情報センター1F 展示ホールにて、大阪芸術大学工芸学科金属工芸コース学生の課題作品展示「金工展 2025」を開催。

- ・9月26日 大阪芸術大学芸術情報センター1F アートホールにて、大阪芸術大学音楽学科学生の主催イベント「Audio Rocket Fes 2025～音楽学科 秋の音楽祭～」を開催。
- ・10月17日～18日 大阪高島屋 7階グランドホール、ならびに大阪芸術大学にて、高校生を対象とした「大阪芸術大学 Art Lab. 第2回 特別工芸セミナー」(1日目・大阪高島屋・第72回日本伝統工芸展鑑賞ツアー、2日目・大阪芸術大学・工芸ワークショップ)を開催。
- ・11月2日 ヤマハミュージック大阪なんば店 2F サロンにて大阪芸術大学大学院生によるグリーティング・コンサートを開催。
- ・11月2日 大阪芸術大学 13号館にて、大阪芸術大学附属幼稚園、今川福祉会青い鳥学園の園児等による絵画作品展、ならびに初等芸術教育学科によるアートワークショップ「こどもぞうけい展」を開催。
- ・11月3日 ヤマハミュージック大阪なんば店 2F サロンにて大阪芸術大学演奏学科・音楽学科学生によるオータムコンサートを開催。
- ・11月3日 御堂筋パーティ実行委員会(大阪府他)主催「御堂筋ランウェイ 2025」に協賛。オープニングのウェルカム演奏・開幕ファンファーレに大阪芸術大学演奏学科の学生が出演。
- ・11月24日 大阪市中央公会堂にて、大阪芸術大学デザイン学科「第19回 OSAKA DESIGN FORUM」を開催。
- ・11月30日 NHK 大阪ホールにて、「大阪芸術大学 声優フェスティバル ―声優レボリューション―」を開催。
- ・12月4日 フェスティバルホールにて、「大阪芸術大学 特別演奏会 2025」を開催。
- ・12月5日～20日 大阪芸術大学芸術情報センター1F 展示ホールにて、「第17回高円宮殿下記念根付コンペティション記念展」を開催。
- ・12月14日～25日 「大阪光の饗宴」コアプログラム「OSAKA 光のルネサンス 2025」中之島公園エリアの中之島バラ園において、大阪芸術大学芸術計画学科による「DINO☆FANTASIA～中之島・記録の発掘～」と題したアートプログラムの演出・展示を行った。
- ・12月18日 阿倍野 ROCKTOWN にて、大阪芸術大学芸術計画学科学生が企画・運営したライブイベント「超新星・SPARK FES 2025-」を開催。
- ・12月20日 大阪市中央公会堂 大集会堂にて、「クリスマス・ポップスコンサート 2025」を開催。
- ・1月10日～23日 大阪府富田林市の旧田中家住宅にて、大阪芸術大学工芸学科「金属工芸コース3回生作品展」を開催。
- ・2月18日 ザ・シンフォニーホールにて、「大阪芸術大学ウインド・オーケストラ 第46回定期演奏会」を開催。
- ・3月6日 兵庫県立芸術文化センター KOBELCO 大ホールにて、「大阪芸術大学 第47回オペラ公演」を開催。
- ・3月7日～8日 大阪南港 ATC ITM 棟 2F 特設会場で開催されたプログラミング・電子工作などの体験型ワークショップイベント「キッズテックエキスポ」において、大阪芸術大学アートサイエンス学科の学生作品を展示。

・サマーミュージックフェスティバル 2025

毎夏恒例のコンサート(プロムナードコンサート)を、令和7年度は塚本学院創立80周年を記念する「サマーミュージックフェスティバル 2025」として8月27日に大阪・フェスティバルホールで開催。

第1部はポピュラステージとして、大阪芸術大学演奏学科ポピュラー音楽コースと大阪芸術大学短期大学部メディア・芸術学科ポピュラー音楽コースの学生によるゴスペルや、学内オーディションで選ばれた学生バンドが演奏を披露。第2部のオーケストラステージでは世界的マエストロである演

奏学科の大友直人教授の指揮により、大阪芸術大学管弦楽団・混成合唱団がクラシックから映画音楽、日本歌曲、アニメソングまで幅広い楽曲を演奏。ヴァイオリニストの川井郁子教授、女優・歌手の島田歌穂教授、ソプラノ歌手の小林沙羅准教授ら豪華ソリスト陣が参加して、祝祭にふさわしい名曲の数々でステージを彩った。また、作曲家の木下牧子客員教授による合唱曲では奈良県立高円芸術高等学校音楽科の生徒との共演も行われ、大舞台に立った学生たちにとって充実した演奏会となった。(来場者数 1,894 名)

・大阪芸術大学芸術劇場「緞帳」を新調

学校法人塚本学院の創立 80 周年記念事業の一環として、大阪芸術大学芸術劇場「緞帳」の新調を実施。星空のアクロポリスが浮かび上がる緞帳の原画は、大阪芸術大学美術学科長で日本芸術院会員でもある日本画家・村居正之教授の作。タイトルの「STAR」はアクロポリスの上で燦然と輝く星々を表し、大阪芸術大学の舞台から数多くのスターが羽ばたいていくことを願って命名された。新しい緞帳は 8 月末に芸術劇場に設置され、お披露目会が 9 月 17 日に行われた。

・大阪芸術大学 動物ジオラマ館「芸大 ZOO」を開館

10 月 1 日 大阪芸術大学に、アフリカや北アメリカの動物たちの剥製を展示した「大阪芸術大学動物ジオラマ館『芸大 ZOO』」を開館した。剥製は滋賀県信楽町の滋賀サファリ博物館に展示されていたもので、同館の閉館に伴い本学が譲り受けたもの。

館内はアフリカの野生動物の生息地を再現したジオラマをはじめとする 3 つのエリアで構成され、剥製 58 体、頭部 35 体、毛皮 9 点、角や骨 9 組などを展示する。多様な動物の暮らしを間近で見られる展示館となっており、動物のデッサンや生き物のキャラクターの構想など、全学科の学生が芸術表現の教材として活用できる施設として、大学としては世界ではじめての動物ジオラマ館となる。

・その他の取り組み

<国際交流>

- ・姉妹校・海外交流協定に基づく相互留学制度により、韓国・弘益大学校から大阪芸術大学に 4 名(デザイン学科 1 名、工芸学科 2 名、映像学科 1 名)の留学生を受け入れ。
- ・8 月 19 日～28 日 英国夏期セミナーとして、オックスフォード大学セント・エドモンド・ホールにおける語学研修に大阪芸術大学から 17 名、大阪芸術大学短期大学部から 1 名の学生が参加。
- ・11 月 18 日～27 日 中国・上海美術学院において「第 33 回日中交流作品展」を開催。11 月 16 日～18 日にかけて上海美術学院訪問ツアーを実施(大阪芸術大学から 6 名、大阪芸術大学短期大学部から 2 名、大阪美術専門学校から 1 名の学生が参加)した。
- ・11 月 17 日～21 日 韓国・弘益大学校において「第 34 回日韓交流作品展」を開催。11 月 17～21 日にかけて弘益大学校訪問ツアーを実施(大阪芸術大学から 7 名、大阪芸術大学短期大学部から 1 名、大阪美術専門学校から 2 名)の学生が参加)した。

<教育組織>

- ・法人本部事務組織に内部監査室ならびに IR(Institutional Research)室を設置。
- ・大阪芸術大学短期大学部保育学科の学生募集停止、ならびに保育学科募集停止に伴う短期大学部収容定員の変更(840 名→760 名)。
- ・大阪芸術大学、大阪芸術大学通信教育部、大阪芸術大学附属大阪美術専門学校の学費(授業料)を改定。

- ・大阪芸術大学短期大学部の学費(授業料、施設設備)ならびに入学金を改定。
- ・大阪医療大学(医療看護学部 理学療法学科、看護学科／令和 8 年度)の設置認可書を受領(令和 7 年 8 月 29 日)。
- ・寄附行為変更(収益事業)の認可書を受領(令和 7 年 12 月 10 日)。

・大阪芸術大学附属幼稚園

教育目標の「生きる力とおもいやりのこころ」に基づき令和 7 年度も様々な活動や行事に取り組んだ。友だちと一緒に力を合わせて取り組むと楽しいという充実感や、頑張ってやり遂げた時の達成感を得ることができるような内容となった。

・園外保育

6 月には海遊館、11 月には関西サイクルスポーツセンターにて 4 園合同による園外保育を実施した。海遊館では 8 階から順に 1 階まで歩きながら、大きなジンベエザメや、いろんな魚を鑑賞したり、停留していた豪華客船を見て大喜び。秋のサイクルスポーツセンターでは、変わり種自転車にチャレンジして楽しんだ。昼食は自宅よりおにぎりを持参して食べた。園外保育は、社会性を身につけたり、好奇心を刺激する事ができる大切な行事となった。

・運動会

9 月、10 月に運動会を行った。会場は、照ヶ丘幼稚園は大阪芸術大学短期大学部の運動場、松ヶ鼻・金剛・泉北幼稚園は大阪芸術大学の総合体育館第 1 アリーナを借りして開催した。各園、年齢に応じたプログラムを準備し、園児の保護者やご家族を人数制限なく招待。たくさんの声援の中の運動会は、子どもたちの運動意欲を高める事ができた。

・作陶教室

大阪美術専門学校の教員及び学生の指導の下、園児が自ら土粘土をこねて制作した。作品(器やお皿)を窯で焼き上げ、卒園記念として持ち帰った。

・おもちつき

12 月に各園でお餅つきを行い、もち米からお餅になる過程を体験した。

日本の伝統的な行事としての文化を伝えたり、臼と杵に触れたり、お餅をつく様子を観察して五感を刺激したり、つきたてのお餅に触れたり、食したりする体験を行った。

・附属 4 園合同音楽会

令和 8 年 1 月 31 日、国際交流センターで演奏会を行った。合唱や、器楽演奏など、4 園の年長児一堂に会して演奏を披露した。大阪芸術大学の音楽教員より本格的な演奏指導をいただくなど、附属幼稚園として格別な 1 日となった。

・地域の子育て支援

大阪府の補助を受け、園内外の保護者へ向けてキンダーカウンセラー事業を行い子育て相談を実施した。

また、未就園児を対象としたおやこ教室や、園庭開放などを年間を通して実施。地域の拠点として未就園児親子を園に招き、安全で楽しい環境を用意し、地域の子育て支援を行った。

上記の他、お誕生日会、こどもクッキング、英語活動、柔道教室、お茶のお稽古、スイミング、iPad 教室、おゆうぎ会、縁日ごっこ、月 1 回の防災避難訓練など園活動を活発に行った。

職員の研修としては、園内研修を年間 4 回実施。また、毎年 12 月に行っている 4 園研究発表会は、今年で第 9 回目を数え、職員に対する保育の資質向上に向けた取組も継続して行っている。

Ⅲ. 財務の概要

(1)決算の概要

①貸借対照表関係

ア)貸借対照表の状況と経年比較

資産の部では、
固定資産の内、有形固定資産が496億8千5百万円となり、昨年比13億3千2百万円の減少となりました。
特定資産は、昨年から増減ございません。
その他の固定資産は、76億6千1百万円となり、昨年比19億6千6百万円の増加となりました。
流動資産は、81億2千7百万円となり、昨年比46億8千5百万円の減少となりました。
資産の部合計は、857億7千4百万円となりました。

負債の部では、
固定負債は、32億3千6百万円となり、昨年比1億1千6百万円の減少となりました。
流動負債は、29億5千7百万円となり、昨年比5億5千3百万円の減少となりました。
負債の部合計は、61億9千4百万円となり、昨年比6億6千9百万円の減少となりました。

純資産の部では、
基本金は、1,230億1百万円となり、昨年比7億2千7百万円の増加となりました。
繰越収支差額は、△434億2千1百万円となり、昨年比△41億9百万円となりました。
純資産の部合計が正味財産となり、795億8千万円となります。

貸借対照表（5ヵ年推移） ※記載金額は千円未満を切捨処理しているため、合計及び差異等の額が一致しない場合があります

資産の部（土地,建物,特定資産,現預金等）		(単位:千円)			
	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
固定資産	86,075,843	78,435,931	77,659,145	77,013,347	77,647,321
有形固定資産	54,422,713	53,437,534	52,000,078	51,018,132	49,685,903
特定資産	20,300,000	20,300,000	20,300,000	20,300,000	20,300,000
その他の固定資産	11,353,131	4,698,397	5,359,066	5,695,214	7,661,417
流動資産	9,711,535	17,184,695	14,889,607	12,813,072	8,127,368
資産の部合計	95,787,379	95,620,626	92,548,752	89,826,420	85,774,689

負債の部（退職給与引当金,未払金,前受金）・**純資産の部**（資産から負債を差し引いた金額）

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末	令和6年度末	令和7年度末
固定負債	3,714,554	3,590,446	3,447,897	3,353,657	3,236,778
流動負債	3,389,266	3,352,823	3,279,507	3,510,957	2,957,843
負債の部合計	7,103,819	6,943,269	6,727,404	6,864,614	6,194,622
基本金	119,259,028	120,498,567	121,470,193	122,273,890	123,001,273
第1号基本金	105,739,028	106,978,567	107,950,193	108,753,890	109,481,273
第2号基本金	0	0	0	0	0
第3号基本金	12,500,000	12,500,000	12,500,000	12,500,000	12,500,000
第4号基本金	1,020,000	1,020,000	1,020,000	1,020,000	1,020,000
繰越収支差額	△ 30,575,469	△ 31,821,210	△ 35,648,844	△ 39,312,084	△ 43,421,206
純資産の部合計	88,683,559	88,677,357	85,821,348	82,961,805	79,580,066
負債の部及び純資産の部合計	95,787,379	95,620,626	92,548,752	89,826,420	85,774,689

イ)財務比率の経年比較

比率項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
運用資産余裕比率	252.1%	249.3%	234.3%	228.4%	206.3%
流動比率	286.5%	512.5%	454.0%	364.9%	274.8%
総負債比率	7.4%	7.3%	7.3%	7.6%	7.2%
前受金保有率	368.2%	678.4%	626.7%	545.0%	443.3%
基本金比率	99.8%	99.8%	99.9%	99.6%	99.8%
積立率	59.1%	58.7%	54.7%	51.2%	46.2%

②事業活動収支計算書関係
ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

事業活動収支計算書の主な状況

事業活動収入では、
学生生徒等納付金収入が、103億4千1百万円となりました。
手数料収入は、入学検定料・試験料収入が主なもので5千4百万円となりました。
寄付金は、現物寄付のみで、1千9百万円となりました。
補助金収入は、経常費補助金で13億6百万円、施設設備補助金は5百万円、大阪府等の地方公共団体補助金は1億3千万円となり、全体で14億4千2百万円となりました。
付随事業・収益事業収入は、4千2百万円となり、昨年度より3百万円増加しました。
雑収入は、私立大学退職金財団交付金収入等で、4億4千1百万円となりました。
受取利息・配当金収入は、11億7千4百万円となりました。
資産売却差額は、設備売却時の差額分他で1千万円となりました。

事業活動支出では、
人件費は、76億2千6百万円となり、昨年度より1億6百万円減少しました。
教育研究経費は、67億8千2百万円となり、昨年度より2億6千9百万円増加しました。
管理経費は、21億5百万円となり、昨年度より3億9百万円増加しました。
資産処分差額は1億1千9百万円となり、建物、備品、図書の廃棄分等です。

事業活動収支計算書（5ヵ年推移） ※記載金額は千円未満を切捨処理しているため、合計及び差異等の額が一致しない場合があります

(単位:千円)							
教育活動による資金収支	科 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	収入	学生生徒等納付金	10,373,108	10,516,313	10,626,823	10,431,185	10,341,112
		手数料	68,754	68,871	62,945	56,739	54,367
		寄付金	0	0	0	0	0
		経常費等補助金	1,137,063	1,043,424	1,068,125	1,048,503	1,436,930
		付随事業収入	21,386	24,495	36,674	39,719	42,227
		雑収入	484,703	401,960	492,264	391,846	441,476
		教育活動収入計	12,085,013	12,055,066	12,286,833	11,967,993	12,316,113
	支出	人件費	7,870,348	7,762,840	7,982,874	7,733,253	7,626,804
		(うち退職給与引当金繰入額)	560,592	424,504	526,483	428,577	446,094
		教育研究経費支出	5,911,455	6,560,067	6,603,752	6,513,499	6,782,914
		(うち減価償却額)	2,097,904	2,202,215	2,254,711	2,226,636	2,085,333
		管理経費支出	1,687,780	1,728,544	1,793,438	1,796,052	2,105,636
		(うち減価償却額)	215,230	226,686	218,770	216,343	338,548
		徴収不能額等	15	725	550	0	103
		教育活動支出計	15,469,598	16,052,177	16,380,615	16,042,804	16,515,458
	教育活動資金収支差額		△ 3,384,585	△ 3,997,111	△ 4,093,781	△ 4,074,811	△ 4,199,344
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金収入	1,479,812	1,180,072	976,532	931,403	1,174,615
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	116
		教育活動外収入計	1,479,812	1,180,072	976,532	931,403	1,174,731
	支出	借入等利息	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額		1,479,812	1,180,072	976,532	931,403	1,174,731
経 常 収 支 差 額		△ 1,904,773	△ 2,817,038	△ 3,117,248	△ 3,143,407	△ 3,024,612	

特別収支	収入	資産売却差額	2,429,469	2,616,393	140,059	241,538	10,107
		その他の特別収入	322,372	225,909	125,306	61,026	24,574
		現物寄付	12,494	8,655	5,345	52,191	19,420
		施設設備補助金	309,878	217,254	119,961	8,835	5,154
		特別収入計	2,751,841	2,842,303	265,365	302,565	34,682
	支出	資産処分差額	12,734	31,466	4,125	18,700	119,112
		その他の特別支出	0	0	0	0	272,696
		過年度修正額	0	0	0	0	0
		特別支出計	12,734	31,466	4,125	18,700	391,808
	特別収支差額		2,739,107	2,810,836	261,240	283,865	△ 357,126
基本金組入前当年度収支差額		834,335	△ 6,202	△ 2,856,008	△ 2,859,542	△ 3,381,738	
基本金組入額合計		△ 2,185,457	△ 1,240,610	△ 971,625	△ 804,019	△ 730,174	
当年度収支差額		△ 1,351,122	△ 1,246,812	△ 3,827,633	△ 3,663,562	△ 4,111,913	
前年度繰越収支差額		△ 29,227,712	△ 30,575,469	△ 31,821,210	△ 35,648,844	△ 39,312,084	
基本金取崩額		3,365	1,071	0	322	2,791	
翌年度繰越収支差額		△ 30,575,469	△ 31,821,210	△ 35,648,844	△ 39,312,084	△ 43,421,206	

(参考)

事業活動収入計	16,316,667	16,077,441	13,528,732	13,201,962	13,525,527
事業活動支出計	15,482,332	16,083,643	16,384,740	16,061,505	16,907,266

イ) 財務比率の経年比較

比 率 項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費比率	58.0%	58.7%	60.2%	60.0%	56.5%
人件費依存率	75.9%	73.8%	75.1%	74.1%	73.8%
教育研究経費比率	43.6%	49.6%	49.8%	50.5%	50.3%
管理経費比率	12.4%	13.1%	13.5%	13.9%	15.6%
事業活動収支差額比率	5.1%	0.1%	△21.1%	△21.7%	△25.0%
借入金等利息比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
学生生徒等納付金比率	76.5%	79.5%	80.1%	80.9%	76.7%
補助金比率	8.9%	7.8%	8.8%	8.0%	10.7%
減価償却比率	14.9%	15.1%	15.1%	15.2%	14.7%
経常収支差額比率	△14.0%	△21.3%	△23.5%	△24.4%	△22.4%

③資金収支計算書関係
ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

収入の部では、
学生生徒等納付金収入が、103億4千1百万円となりました。
手数料収入は、入学検定料・試験料収入が主なもので5千4百万円となりました。
補助金収入は、経常費補助金で13億6百万円、施設設備補助金は5百万円、大阪府等の地方公共団体補助金は1億3千万円となり、全体で14億4千2百万円となりました。
資産売却収入は、設備の売却等により1千万円となりました。
付随事業・収益事業収入は、4千2百万円となり、昨年度より2百万円増加しました。
受取利息・配当金収入は、11億7千4百万円となりました。
雑収入は、私立大学退職金財団交付金収入等で、4億2千2百万円となりました。
前受金収入は、16億8千4百万円となり、昨年度より5億7千6百万円の減額となりました。

支出の部では、
人件費支出は、76億8千4百万円で、昨年度より1億4千万円減少しました。
教育研究経費支出は、46億7千5百万円で、昨年度より3億8千8百万円増加しました。
管理経費支出は、17億6千7百万円で昨年より1億8千7百万円増加しました。
施設関係支出は、大阪芸術大学31号館剥製置場設置他で4億5千7百万円となりました。
設備関係支出は、大阪医科大学分の備品什器等購入他で7億6千2百万円となりました。

資金収支計算書（5ヵ年推移） ※記載金額は千円未満を切捨処理しているため、合計及び差異等の額が一致しない場合があります

（単位:千円）					
収 入 の 部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学生生徒等納付金収入	10,373,108	10,516,313	10,626,823	10,431,185	10,341,112
手数料収入	68,754	68,871	62,945	56,739	54,367
寄付金収入	0	0	0	0	0
補助金収入	1,446,941	1,260,678	1,188,086	1,057,338	1,442,084
資産売却収入	9,652,677	9,269,503	1,932,597	1,355,399	10,108
付随事業・収益事業収入	21,386	24,495	36,674	39,719	42,344
受取利息・配当金収入	1,479,812	1,180,072	976,532	931,403	1,174,615
雑収入	484,305	400,440	492,111	389,807	422,425
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	2,394,474	2,425,187	2,262,665	2,261,137	1,684,752
その他の収入	566,052	787,520	650,662	6,577,316	2,444,319
資金収入調整勘定	△ 3,133,314	△ 2,956,646	△ 2,948,514	△ 2,602,004	△ 2,761,974
前年度繰越支払資金	1,187,696	8,817,616	16,452,507	14,179,637	12,322,239
収入の部の合計	24,541,890	31,794,053	31,733,093	34,677,679	27,176,394

支 出 の 部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費支出	7,961,662	7,885,595	8,125,321	7,825,463	7,684,726
教育研究経費支出	3,812,679	4,355,186	4,343,777	4,286,357	4,675,118
管理経費支出	1,472,550	1,501,857	1,574,667	1,579,708	1,767,087
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	1,626,405	867,455	503,847	1,001,210	457,117
設備関係支出	600,862	599,136	493,382	378,318	762,194
資産運用支出	0	0	2,490,734	7,498,014	4,010,261
その他の支出	1,146,538	1,009,232	976,007	1,017,054	1,267,162
資金支出調整勘定	△ 896,424	△ 876,919	△ 954,282	△ 1,230,687	△ 915,688
翌年度繰越支払資金	8,817,617	16,452,507	14,179,637	12,322,239	7,468,412
支出の部の合計	24,541,890	31,794,053	31,733,093	34,677,679	27,176,394

イ)活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

活動区分資金収支計算書（5ヵ年推移） ※記載金額は千円未満を切捨処理しているため、合計及び差異等の額が一致しない場合があります

(単位:千円)

科目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	10,373,108	10,516,313	10,626,823	10,431,185
		手数料収入	68,754	68,871	62,945	54,367
		経常費等補助金収入	1,137,063	1,043,424	1,068,125	1,048,503
		付随事業収入	21,386	24,495	36,674	39,719
		雑収入	484,305	400,440	492,111	389,807
		教育活動資金収入計	12,084,615	12,053,545	12,286,681	11,965,953
	支出	人件費支出	7,961,662	7,885,595	8,125,321	7,825,463
		教育研究経費支出	3,812,679	4,355,186	4,343,777	4,286,357
		管理経費支出	1,472,550	1,501,857	1,574,667	1,579,708
		教育活動資金支出計	13,246,891	13,742,639	14,043,649	13,691,529
	差引		△ 1,162,276	△ 1,689,094	△ 1,756,968	△ 1,725,575
	調整勘定等		55,622	64,299	△ 125,220	48,561
	教育活動資金収支差額		△ 1,106,654	△ 1,624,794	△ 1,882,305	△ 1,677,013
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備補助金収入	309,878	217,254	119,961	8,835
		施設設備売却収入	480	266	1,089	3,688
		減価償却引当特定資産取崩収入	0	0	0	3,000,000
		施設整備等活動資金収入計	310,358	217,520	121,050	3,012,523
	支出	施設関係支出	1,626,405	867,455	503,847	1,001,210
		設備関係支出	600,862	599,136	493,382	378,318
		減価償却引当特定資産繰入支出	0	0	0	3,000,000
		施設整備等活動資金支出計	2,227,267	1,466,592	997,230	4,379,528
	差引		△ 1,916,909	△ 1,249,072	△ 876,179	△ 1,367,005
	調整勘定等		△ 491,032	100,113	27,666	435,358
	施設整備等活動資金収支差額		△ 2,407,941	△ 1,148,959	△ 848,512	△ 931,646
小計（教育活動資金収支差額+施設整備等活動収支差額）		△ 3,514,595	△ 2,773,753	△ 2,730,818	△ 2,608,660	△ 4,046,678
その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	9,652,197	9,269,237	1,931,508	1,351,711
		その他の収入	70,779	57,639	89,170	3,053,988
		小計	9,722,885	9,326,877	2,020,678	4,405,700
		受取利息・配当金収入	1,479,812	1,180,072	976,532	931,403
		収益事業収入	0	0	0	0
		その他の収入他の活動資金収入計	11,202,697	10,506,949	2,997,211	5,337,104
	支出	有価証券購入支出	0	0	2,490,734	1,498,014
		その他の支出	58,397	98,089	62,527	3,073,826
		小計	58,397	98,089	2,553,261	4,571,841
		その他の活動資金支出計	58,397	98,089	2,553,261	4,571,841
	差引		11,144,300	10,408,859	443,949	765,262
	調整勘定等		216	△ 215	14,000	△ 14,000
	その他の活動資金収支差額		11,144,516	10,408,644	457,949	751,262
支払資金の増減額（小計+その他の活動資金収支差額）		7,629,921	7,634,890	△ 2,272,869	△ 1,857,398	△ 4,853,826
前年度繰越支払資金		1,187,696	8,817,616	16,452,507	14,179,637	12,322,239
翌年度繰越支払資金		8,817,617	16,452,507	14,179,637	12,322,239	7,468,412

ウ)財務比率の経年比較

比 率 項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動資金収支差額比率	△ 9.2%	△ 13.5%	△ 15.3%	△ 14.0%	△ 21.4%

(2)その他

①有価証券の状況 (単位:千円)

種 別	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債券	27,300,000	26,164,263	△ 1,135,737
株式	110,880	265,467	154,586

ア. 運用目的
資金の適正かつ効率的な運用の実績を図り、学校運営を継続的に支えることを目的とする。

イ. 運用方針
運用は、安全を第一とし、かつ祐里に運用をすることを原則とする。

ウ. 運用の対象
資金運用に関する取扱い規程の第4条に定められたものとする。

エ. 運用の体制
運用の責任者は理事長とし、担当者は専務理事、事務担当者は経理部長とする。

②借入金の状況
借入金はありません。

③学校債の状況
学校債は発行していません。

④寄付金の状況
現在募集していません。

⑤補助金の状況 (単位:千円)
※経常費補助金の獲得金額推移

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
一般補助	408,979	309,775	312,886	341,778	234,642
特別補助	12,964	5,193	1,620	4,947	4,200
授業料等減免費	578,754	598,599	610,562	585,252	1,067,632
合計	1,000,697	913,567	925,068	931,977	1,306,474

⑥収益事業の状況
本年度より私立学校法に基づき、収益事業を行うこととなりました。不動産賃貸事業です。

貸借対照表 31日03月 令和8年 (単位:円)				損益計算書 令和7年4月 1日から 令和8年3月31日まで (単位:円)	
資産の部		負債の部		科目	金額
科目	金額	科目	金額		
流動資産		流動負債		営業収益	
未収入金	2,017,043	未払金	1,055,885	施設利用料	1,100,000
		負債の部合計	1,055,885	公共料金使用料	917,043
固定資産				収入計	2,017,043
建物附属設備	13,601,848	純資産の部		営業費用	
		元入金	14,563,006	光熱水費	938,937
資産の部合計	15,618,891	純資産の部合計	14,563,006	減価償却費	961,158
		負債及び純資産の部合計	15,618,891	支出計	1,900,095
				経常利益	116,948
				営業外利益	
				学校会計繰入前利益	116,948
				学校会計繰入支出	116,948
				税引前登記純利益	0
				法人税・住民税及び事業税	0
				当期純利益	0

⑦ ア) 関連当事者

関連当事者との取引はありません。

イ) 出資会社

ありません。

⑧ 学校法人間財務取引はおこなっておりません。

(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

1. 経営状況の分析

短期大学部保育学科および泉北幼稚園の募集停止に伴い、学院全体の学生生徒等納付金収入は前年度比約9千万円の減少となりました。

収容定員の安定的確保に向け、広報活動を含めた取り組みを継続してまいります。

令和8年度には大阪医療大学が開校となりますが、開設費用が先行するため、完成年度までは収支への寄与は見込めない状況です。

2. 経営上の成果と課題

令和7年度は以下の要因により、施設・設備の支出が増加しました。

- ・大阪医療大学の設置準備経費
- ・大阪芸術大学の剥製置場(芸大ZOO)の設置
- ・大阪芸術大学芸術劇場の緞帳更新

一方で、令和8年度には同規模の大口支出は予定しておりません。

人件費依存率は低下しております。引き続き適正化に向けた取り組みを進めてまいります。

財政基盤の強化に向けて支出構造の見直しと収支改善が重要な課題です。

3. 今後の方針

「学校法人塚本学院大阪芸術大学グループビジョン2030」に基づき、これまでの

80年にわたる歴史と伝統に革新を融合させ、学院として着実に前進してまいります。

財政面・教育面の両面から持続可能な運営体制を構築し、未来にわたり強固で安定した学院運営を実現する方針です。

Ⅳ. 学校法人の業務の適正を確保するための体制(内部統制システム)の整備及び運用状況の概要

(1) 関係する決議の概要

理事の職務執行が法令、「学校法人塚本学院寄附行為」等に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、「学校法人塚本学院内部統制システム整備の基本方針」を令和 6 年度第 3 回理事会[令和 7 年 3 月 26 日開催]において決定した。

(2) 体制整備及び運用状況の概要

①理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

理事の職務執行に係る情報等の保存及び管理に関し、寄附行為に定めるものの他、記録の方法・内容・保存期間等の詳細について、「学校法人塚本学院理事会運営規程」(令和 7 年 3 月 26 日制定)において規定した。

(令和 6 年度第 3 回 理事会[令和 7 年 3 月 26 日開催]において承認)

②損失の危険の管理に関する規程その他の体制

法人を取り巻く社会動向の変化等により生じ得る多用なリスクについて、事前に把握・検証し、管理するため、「学校法人塚本学院組織機構・事務分掌規程」を改定し、法人組織内に、令和 7 年 4 月 1 日より IR(Institutional Research)室を設置。令和 8 年 4 月 1 日より経営戦略部事務室の設置を決定した。

(「IR 室」令和 6 年度第 3 回 理事会[令和 7 年 3 月 26 日開催]において承認／「経営戦略部事務室」令和 7 年度第 7 回 理事会[令和 8 年 3 月 18 日開催]において承認)

③理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

・「学校法人塚本学院寄附行為」を令和 7 年 4 月 1 日付で改定。

(令和 6 年度第 3 回 塚本学院理事会[令和 7 年 3 月 26 日開催]において承認)

・「学校法人塚本学院理事の職務及び決裁権限規程」を令和 7 年 3 月 26 日付けで制定。

(令和 6 年度第 3 回 塚本学院理事会[令和 7 年 3 月 26 日開催]において承認)

④職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制

コンプライアンスの推進に関する管理体制を整備するため、「学校法人塚本学院コンプライアンス推進規程」を令和 7 年 4 月 1 日付で改定。

(令和 6 年度第 3 回 塚本学院理事会[令和 7 年 3 月 26 日開催]において承認)。

⑤監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制等

監事の監査業務の適正性を確保する体制を整備するため、「学校法人塚本学院監事監査等職務規程」を令和 7 年 3 月 26 日付で制定。「学校法人塚本学院内部監査規程」を令和 7 年 4 月 1 日付で改定。

(令和 6 年度第 3 回 塚本学院理事会[令和 7 年 3 月 26 日開催]において承認)

事業報告書の附属明細書

令和7年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、
事業報告の附属明細書は作成していない。

資 金 収 支 計 算 書

令和 7 年 4 月 1 日から

令和 8 年 3 月 3 1 日まで

< 泉北 >

(単位 : 円)

収 入 の 部	
科 目	決 算
学生生徒等納付金収入	6,205,000
手数料収入	0
寄付金収入	0
補助金収入	10,681,492
国庫補助金収入	0
地方公共団体補助金収入	10,681,492
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	0
受取利息・配当金収入	1,059
雑収入	594,163
借入金等収入	0
収入の部合計	17,481,714
支 出 の 部	
科 目	決 算
人件費支出	37,160,506
教育研究経費支出	17,279,597
管理経費支出	121,700
借入金等利息支出	0
借入金等返済支出	0
施設関係支出	0
設備関係支出	11,198
支出の部合計	54,573,001

事業活動収支計算書

令和 7年 4月 1日から
令和 8年 3月 31日まで

<泉北>

(単位：円)

教育活動収入支	事業活動収入の部	科 目	決 算
		学生生徒等納付金	6,205,000
		手数料	0
		寄付金	0
		経常費等補助金	10,681,492
		国庫補助金	0
		地方公共団体補助金	10,681,492
		付随事業収入	0
		雑収入	594,163
		教育活動収入計	17,480,655
	事業活動支出の部	科 目	決 算
		人件費	37,957,649
		教育研究経費	27,418,983
		管理経費	132,805
		徴収不能額等	0
		教育活動支出計	65,509,437
教育活動収支差額		△ 48,028,782	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	決 算
		受取利息・配当金	1,059
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	1,059
	事業活動支出の部	科 目	決 算
		借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
		教育活動外支出計	0
教育活動外収支差額		1,059	
経常収支差額		△ 48,027,723	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	決 算
		資産売却差額	0
		その他の特別収入	0
		特別収入計	0
	事業活動支出の部	科 目	決 算
		資産処分差額	28,456
		その他の特別支出	3,686,000
		特別支出計	3,714,456
特別収支差額		△ 3,714,456	
基本金組入前当年度収支差額		△ 51,742,179	
基本金組入額合計		0	
当年度収支差額		△ 51,742,179	

(参考)

事業活動収入計	17,481,714
事業活動支出計	69,223,893